

平成 21 年度広島市立広島特別支援学校第 2 回学校協力者会議概要

1 日 時 平成 21 年 11 月 19 日 (木) (10:00~11:40)

2 場 所 校長室

3 内 容

(1) 校内見学 (約 30 分)

(2) 学校長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 協議

ア 学校の現状についての説明 (学校長より)

① 建替について

② 学校長の方針について

③ 学校経営計画中間評価について

イ 意見交換

① 建替について

○ すばらしい学校ができるので入学希望者は増えるであろう。教室数は大丈夫であろうか？

A: 最大で普通教室 72。生徒数 360 人~370 人を想定している。また、多目的室を作って転用できるように考えている。

○ 最近、療育手帳を持っていない子どもで精神障害者手帳を取得して特別支援学級に入級する子どもが増えている。

○ 今後、高等特別支援学校が必要であろう。専攻科みたいなものが欲しい。

○ バリアフリーは肢体不自由だけではない。知的障害、発達障害者には階よってフロアの色を変えたり、壁の色を変えたりの見覚的な情報のバリアフリー化が必要。また、精神障害や発達障害者は蛍光灯の周波数で混乱する人もいる。そういった配慮も必要であろう。

○ 大人が満足できるものでなく、子どもが満足できるものでないといけない。学校協力者会議のメンバーは様々な分野の専門家がおられるので知恵を出し合いたい。

○ 社会に出て行くためには、手厚い特別な配慮だけでは難しいので、年齢が上がるにつれ、社会に適応できるようなスキルや耐性を身につけることも必要となる。

○ 校舎が大きく、子どもの導線が長く配慮が必要であろう。

○ ビオトープの安全性については検討が必要である。

○ 植栽については、四季を感じられるものや実や葉が教材になるなどの学習につながるものが必要である。

○ 最近、公園管理等の仕事も増えてきており、植栽や芝生の管理等は高等部の生徒の学習内容になりうる。

○ 作業所としては、植栽や芝の管理等を仕事として発注してもらえば助かる。

○ 東雲中では障害者雇用で 2 名の方を雇用し、教職員参加の環境委員会を作って業務開発を行い、農園管理や学習教材作成の業務を依頼し、意欲的に働いてもらっている。

○ 環境は人を育てる。環境を美しく整えることは情緒の安定にもつながる。

○ 環境整備には P T A も参加したい。

○ 外部の力を借りる前に、教職員の美しい環境を整えるという意識を育てないと、外部にお任せという状態になる。

② 学校長の方針について

○ 教職員の名札の着用についてはなんでもないようなことだが、保護者、児童生徒、不審者への対応だけでなく、教職員の意識を変えるためにも必要なことである。

③ 学校経営計画中間評価について

○ 方策に対する評価となっている。目標に対しての評価の方がベター。評価をして途中で方策を変えることもありうる。P D C A の P があって C であり、D C A になりやすい。P についての評価が必要である。

④ 公開授業について

○ 実践が信頼されていれば人は来る。実践を通して、支援をほしいということが広がる。センター的機能の充実につながる。

⑤ その他

○ 町内会長さんには学校行事等、積極的に町内に紹介していただいて感謝している。

(5) 委員長あいさつ

(6) 学校長あいさつ